

Excellence Porsche **33** 911 GT3 R

2016 AUTOBACS SUPER GT
Race Report

Fuji

August 6 / 7 2016

Naoya Yamano / Yuya Sakamoto

Qualify : 16th (1' 38" 870)

Race : 24th (53 Laps)



複数回のテスト、そして第4戦SUGOでつ
かんだ浮上のきっかけ。それをたしかなもの
にするためには、やはり“結果”が欲しい。
Excellence Porsche Team KTRは2週間の
インターバルを経て、第5戦富士スピードウ
ェイに臨んだ。今回、Bドライバーには公式
テストにも参加した好漢、坂本祐也を起用。
昨年以来のレースを戦うことになるが、チ
ームからの信頼、実績も十分だ。

迎えた予選日、8月6日の富士は、この時
季らしい酷暑。午前8時50分からスタート
した公式練習でも、すでに汗が流れ落ちる陽
気となった。Aドライバーの山野直也がステ
アリングを握ったExcellence Porscheは、16
周を走行した後に坂本に交代。9周をこな
しピットに戻り、ふたたび山野へ。終盤山野
は1分39秒台という好タイムを連発してセッ
ションを終えた。山野のマークした1分39秒
436は16番手タイムだが、僅差のGT300クラ
スだけにトップ10圏内とはコンマ5秒も離
れていない。今シーズン初の予選Q2進出はま
ったく不可能ではないターゲットだ。

午後は気温も33℃まで上昇。暑さが体
に伝わる状況のなか、午後2時25分から公式
予選Q1がスタートした。Q1担当は山野。まず
はきっちりとQ2進出を果たし、坂本に繋げ
たい。タイヤを温めアタックに向かった山野は

5周目に1分38秒870をマーク！ その時点
での6番手に浮上する。翌周、さらに山野は
タイムを縮めにかかり、前周を上回るセク
タータイムを刻んでいく。しかし、駆動系トラ
ブルに見舞われた#108 ランボルギーニがコ
ースサイドにストップ。これで赤旗中断とな
ってしまったのだ。当然アタックは中止とな
る。

山野はその後タイムアップを果たせず、Q1
は午前と同じ16番手となってしまった。Q2進
出の14番手まであとふたつ。タイムにすれば
0.050秒届かなかった。あの赤旗さえなけれ
ば……と言える予選となった。

とはいえ、上位で戦える手応えは間違いな
かった。Excellence Porsche Team KTRは、
決勝でのポジションアップを目指すべく、8
月7日午前9時からのフリー走行に臨んだ。
山野、坂本とも8周ずつをこなし、1分40秒
520というベストタイムをマーク。レースに向
けたExcellence Porscheの状態を確認した。

迎えた午後2時25分からの決勝レース。
スタートを担当したのは山野だ。気温33℃、
路面温度49℃という高温のなか、山野は1
周目を18番手で終えると、“助っ人”を呼んだ
#48 GT-Rや#30 プリウスといったマシンと戦
いながら、上位を目指していく。

しかし9周目、山野は突然リヤからバイブ
レーションを感じ取る。その直後、強烈なG

がかかる100Rで、左リヤタイヤがバーストし
てしまった。高速コーナーで山野はなんとか
態勢を立て直し、ランオフエリアに留めるが、
ゆっくりとピットに戻らざるを得ず、大きくポ
ジションを落とすことになってしまった。

実質テールエンダーとなってしまったが、
ピットでタイヤを交換すると、山野はハイペ
ースでレースを展開していった。後で分かる
ことだが、このペースは入賞したマシンよりも
はるかに良いものだったのだ。

ただ、流れが悪いときにはさらにさまざま
なアクシデントが起きるもの。ピット作業時の
違反をとられてしまい、28周を終えふたたび
ピットに戻ることを余儀なくされてしまう。そ
の後山野は安定したペースを取り戻し、38周
を終え坂本に交代。ふたたび前を追った。

坂本も快調なペースで周回を重ねていた
のだが、46周目、こちらも高いGがかかる
300Rで、突然のバーストに見舞われてしま
った。坂本はなんとかクラッシュすることなくピ
ットに帰り着くが、これで4回目のピットイ
ン。Excellence Porscheは完走こそ果たした
ものの、9周遅れの24位という結果となって
しまった。

「速さ、実力はあるのに……」なぜか出ない
結果。次戦は1000kmという長丁場の鈴鹿
戦。チームの総合力が、試される。

Quote.



Naoya Yamano A Driver

順位としては良くなかったですが、僅差のなかだったのでいい予選だったと思います。決勝序盤はライバルたちといいバトルをできていました。しかしタイヤバーストに見舞われてしまい、場所も悪くて大きく遅れてしまったのが悔しいところです。その後はペースも良かったので、ポイント圏内は狙えたんですが……。実力はあるのにトラブルに悩まされ、結果が出ないのが悔しいですね。

Yuya Sakamoto B Driver

決勝ペースが良いのは予想していたので、レースは面白いだろうと思っていたのですが……。アクシデントが起きてしまい残念です。僕のドライブ中にバーストしたときには突然バイブレーションがきて、予感した瞬間に起きてしまいました。ただ、300R というランオフが広い場所でのトラブルだったので、そこは幸いでした。鈴鹿では絶対にリベンジしたいと思います。



Tadashi Fujita Team Principal

今回はすごくいい流れで来ていると思ったんですが、アクシデントが多く、非常に残念です。これから原因をしっかりと探求して、次戦の鈴鹿までに解決していいポジションを目指していきたいと思います。そんな状況下で、クラッシュやマシンに対するダメージがなかったのが不幸中の幸いでした。ドライバーふたりがしっかり対処してくれたのが良かったのでしょうか。

Toshiaki Takeda Team Director

タイヤに厳しい状況なのは分かっていたのですが、それでもマネージメントをしていけば乗り切れるはずでした。原因は正確にはまだ分かっていませんが、ポイント圏内にいける状況だったので悔しいですね。ドライバーが無事に帰ってこれたのが幸いです。坂本選手も速さはあるのですが、やはりタイヤが厳しかったですね。今後暑いレースが続くので、しっかり対処したいです。



www.porsche.ktouch.jp

 fb.me/porshegt300